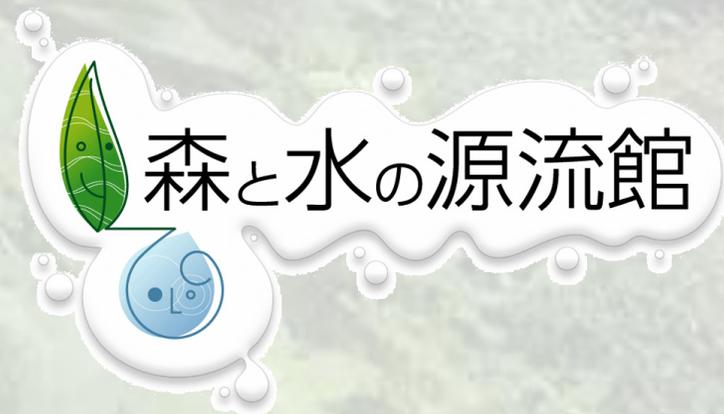


地域住民の視点でみる川上村の自然

川上村自然観察研究会活動報告

～川上村の大切な自然～



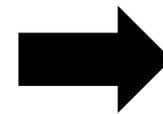
川上村自然観察研究会

令和3年～
(今年で4年目)

(活動の目標)

吉野川・紀の川を育む源流の豊かな自然環境の保全に寄与するため、生育・生息する野生生物の学習、啓蒙・啓発を行うとともに、村内および流域の親睦・交流を深める。

毎月、村内外の自然観察や勉強会を実施
森と水の源流館が村民活動として支援
毎月第4月曜日に活動



源流人会会員さん
にも多数

川上村教育委員会社会教育学級補助事業



川上村

面積：269.16km²

人口：1188人

面積の約95%が森林

人工林70%、天然林30%

(日本では人工林40%、天然林60%)

吉野川紀の川の源流
吉野林業の中心地



今年度の川上村での活動



4月22日 上多古



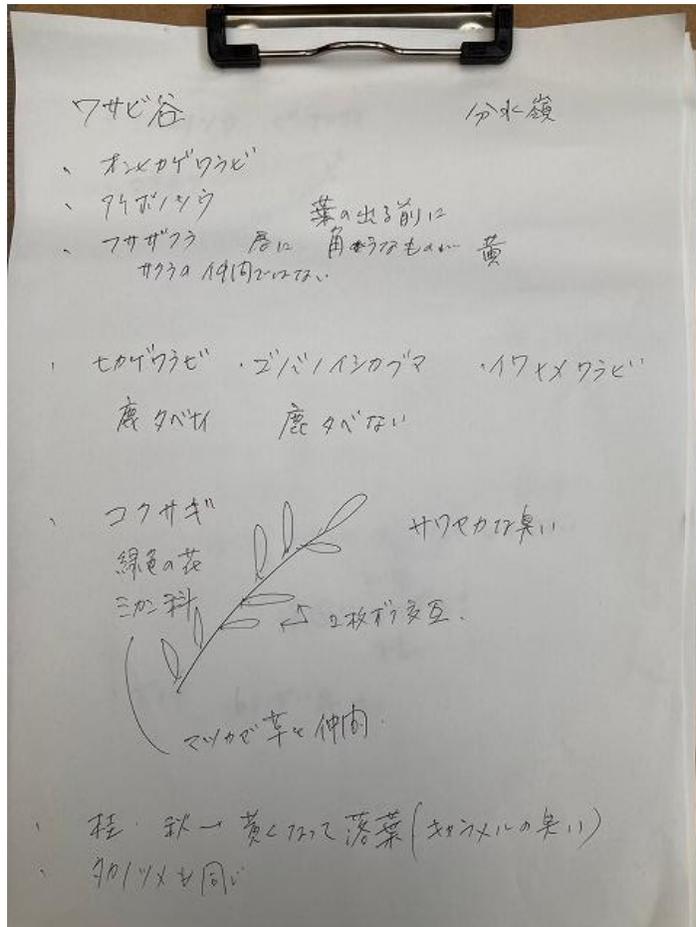
6月22日 足ノ郷峠～白屋岳



7月26日 伯母谷、山葵谷



観察した植物の記録などをしていきます。



自然観察会 武木・白屋任道山口の観察 2042・7・22

- ・「原ノ里」の番歌 天竺組の歴史
- ・ヒカゲノカズラ 沢地を好む
- ・タラ トゲがある
- キヤベツの祖先はヨーロッパの雑草→ケールに進化→今のキヤベツに
 なるを改良したのが野菜
 漬物は食べられるのを避けるために苦味、塩を持つ、それらを獲得できな
 ければトゲを持つ。
- ・ヤマカシウ ノイバの葉に似ている(?)がヤマカシウは葉の先が尖っている
- ・ノリウツギ 空すと表記されるように葉の中は空所。葉に産毛が見られ、裏ではヒトデ
 のような形で見られる。
- ・ミスズビラコ キュウリダケ属。小さな花弁の花
- ・ツツカゼリク 毒を持つ 鹿が食べない
- ・タラマコケ 「コケ」と名前がついているが「シダ」コケは「タラマコケモドキ」
- ・ツヤナシノノヂ 大きなシダ、イノシシの尿のように毛が密着している
- ・チドリダケ
- ・蘆地 川上村では珍しい 伏流水がある
- ・オニヤンマ
- ・オオミズゴケ 古野川から花道には分布、高野には少ない
 川上で見られるのは蘆地、北見、ここでの分布

※ ここではフィリピンプレートとユーラシアプレートの新
 マグマは酸性、地層物(砂、泥、石灰岩)はアルカリ性

オオミズゴケはアルカリ性を嫌うので、プレートの酸性のところ(花鹿岩)
 に生える

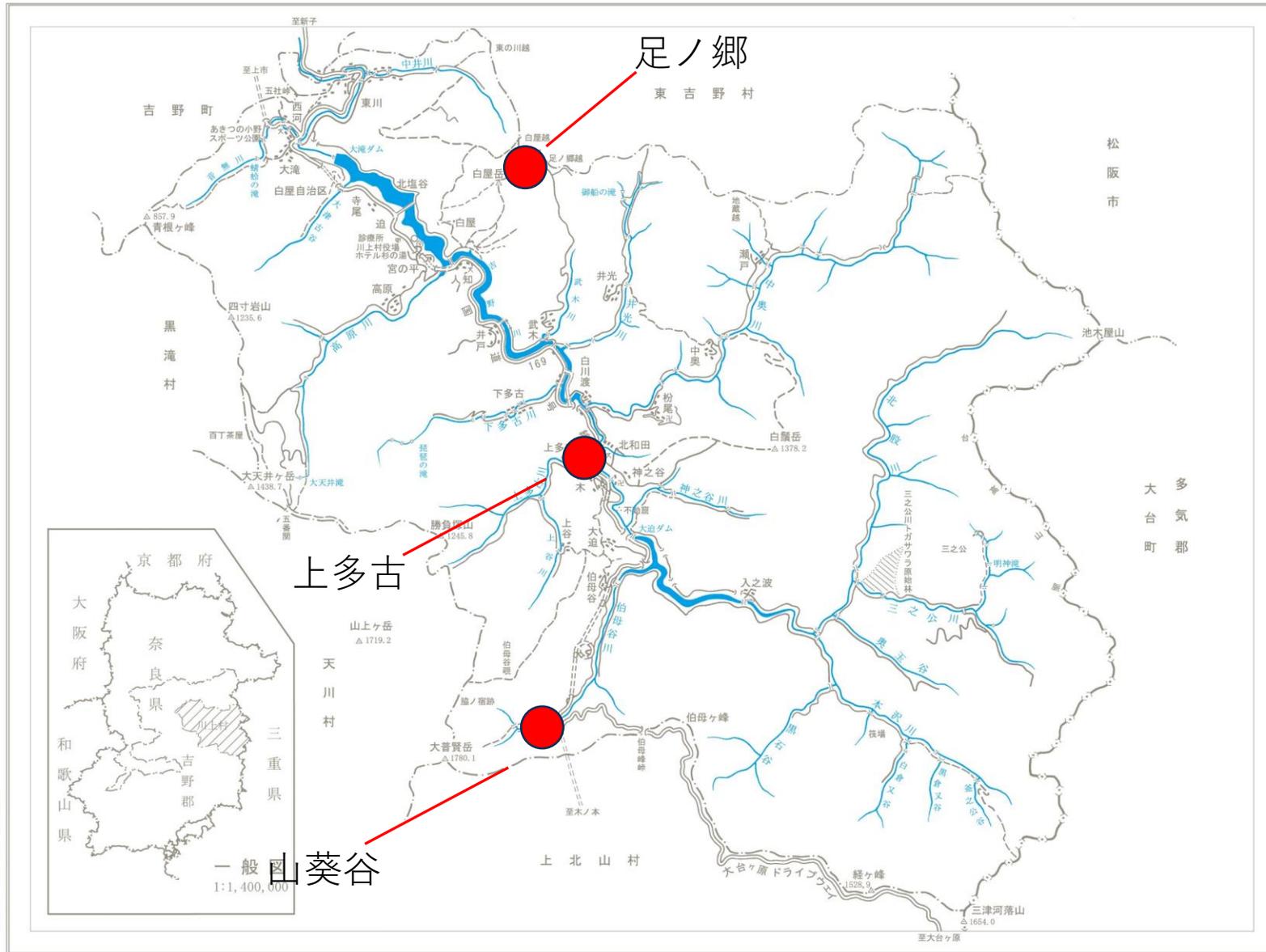
※ 今日の観察地は温帯(北北を併用するの温度) 暖帯→温帯→冷温帯→冷帯

・コセイタカスギゴケ 中高山帯 (ブナ)高山に生息)

※ ミニ温帯はミズゴケまたはイネ科の植物の下の方が腐って堆積してできている。
 北極ではミズゴケの下のはらは腐らない→ビートモス

毎回、メモを付けたり、まとめたりします。  メモ起こしをしたのが今回の発表です。

奈良県吉野郡川上村一般図



川上村役場

株式会社バスコ調整



上多古

山葵谷

足ノ郷

多気郡
大台町

松阪市

池木履山

白旗岳
△1378.2

三之公川
トガサワラ原始林

三之公

明神池

水沢川

三津河原山
△1654.0

至大台ヶ原

大普賢岳
△1780.1

伯母ヶ峰

至米ノ本

上北山村

伯母ヶ峰

大普賢岳

4月22日

場所：上多古

参加者：11名



地理院地図（電子国土Web）

春植物と石灰岩植生観察
集落周辺
標高約400m

毒



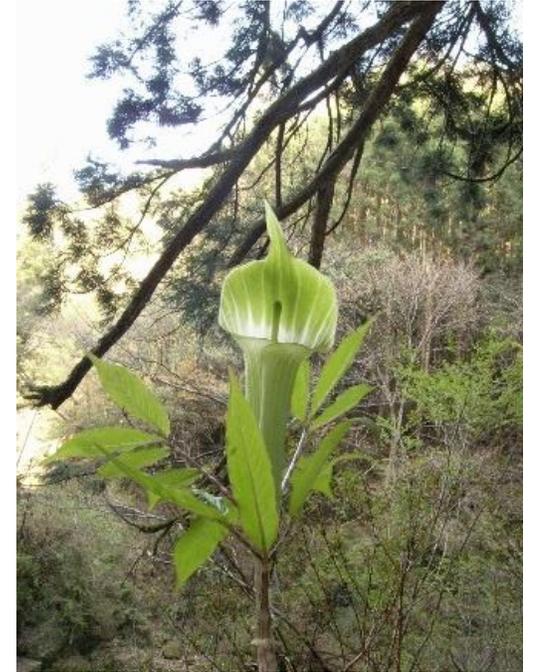
ホウチャクソウ

毒



ムラサキケマン

毒



ムロウテンナンショウ

春のお花・有毒植物が目立ちます。

シカなどの草食獣の影響かな？
ヤマビルも発見・・・



コミヤマカタバミ

金属を溶かすほどの酸「シュウ酸」を持つ。（10円玉で実験）イタドリなどの酸っぱいのも同じシュウ酸。食べ過ぎると下痢するよ。



カキドオシ

垣根を通すほど強いから「垣通し」薬草
こどもの「かんのむし」に効くらしい。
山菜としても食べられる。



ヤマブキが川上村のシンボルなのはなぜ？



園芸種



野生種

ヤマブキが川上村のシンボルなのはなぜ？



園芸種

七重八重花は咲けども山吹の
実のひとつだに亡きぞ悲しき
兼明親王（後拾遺和歌集）



野生種

川上村のヤマブキと言え
ばこっち

ヤマブキが川上村のシンボルなのはなぜ？



分布はあちこちにしているものの、

ヤマブキは石灰岩地に特徴的な植物
(選択種、嗜好種)

Shimizu (1961)

・日本の石灰岩に特徴的な種を限定種 75種，撰択種 39種，嗜好種 9種を報告。

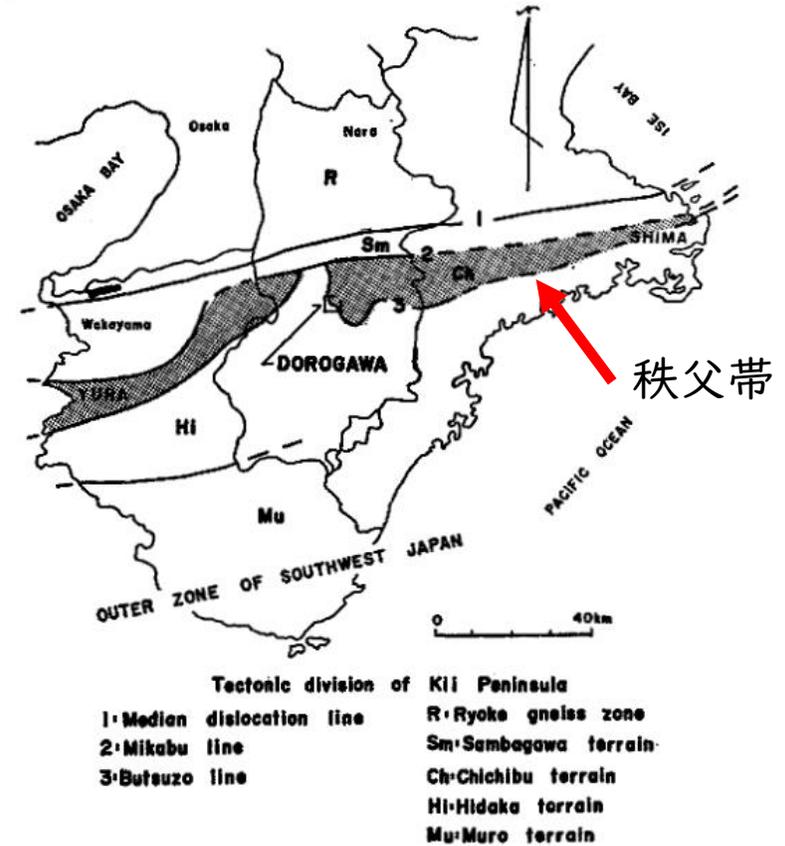
川上村の地質は？

わりとめずらしいらしい



Fig. 1. Distribution of the limestone districts in Japan and Taiwan
Numerals indicate location of the selected fields the florulas of which are described.

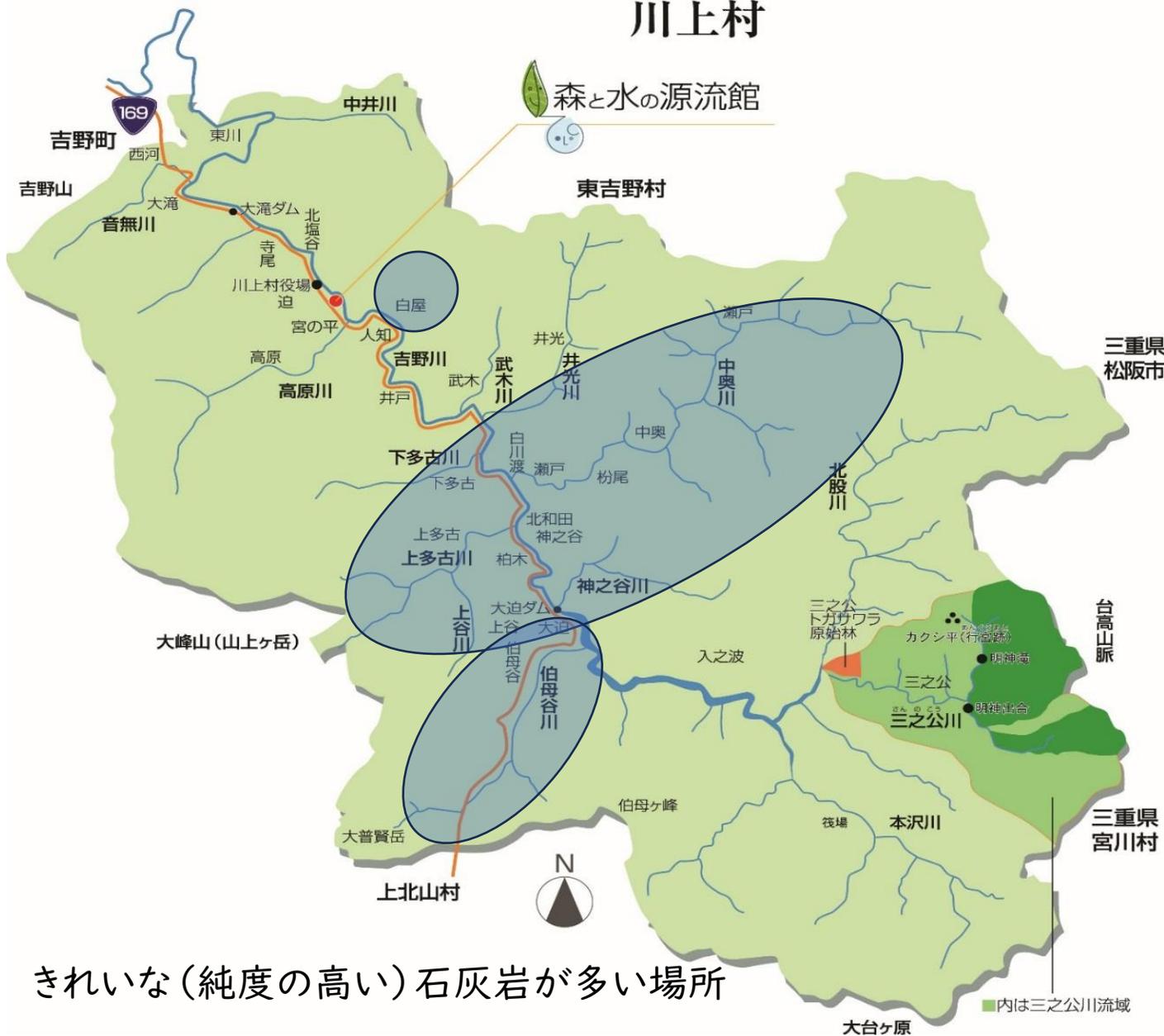
日本の石灰岩地 (Shimizu 1961) 改



第1図 調査地域と紀伊半島の地質構造の概略

(西田1969)

川上村



きれいな(純度の高い)石灰岩が多い場所

ホントにあるか見に行こう!



上多古林道沿いの純度の高い石灰岩の露頭
(炭酸カルシウム含有率が50%を超えると白
みが強くなる)
途中に小さな鍾乳洞(石灰洞)も発見。

ヤマブキが川上村のシンボルなのはなぜ？



なるほど、たくさんヤマブキ
があるわけだ！



川上村

森と水の源流館



セイナンヒラゴケ *Neckeropsis calcicola*



上多古林道沿いの純度の高い石灰岩の露頭
(炭酸カルシウム含有率が50%を超えると白
みが強くなる)

きれいな(純度の高い)石灰岩が多い場所

大台ヶ原 ■内は三之公川流域

会員情報

上多古口から見える勝負塚
山は、上多古では「おにぎ
り山」とよばれています。



会員情報

しおのは
ヒカゲノカズラは入之波では
「キツネノタスキ」とよば
れています。



観察記録

樹木：

ヤマブキ（花期）、コクサギ、アオキ（花期）

草本：

ムラサキケマン（花期）、ミヤマキケマン（花期）、スズシロソウ（花期）、ミヤマカタバミ（花期）、ミヤマハコベ（花期）、ムロウテンナンショウ（花期）、カテンソウ（花期）、ウワバミソウ、イタドリ（食べごろ）、ホウチャクソウ（花期）、ペラペラヨメナ（最近、増えつつある外来種。集落内の石垣に逸出したものが野生化）、

シダ：

ヒカゲノカズラ、

コケ：

セイナンヒラゴケ

6月19日

場所：足ノ郷越～白屋岳

参加者：7名



・標高が約1,000mあります。気候区分でいうと「温帯」くらいにあたります。川上村で人がくらししているところより一段階、涼しい環境になります。

この日も涼しかった。



地理院地図 (電子国土Web)



足ノ郷のお地蔵さんにお参り

昔は東吉野村小川と川上村武木の両区でお祀り

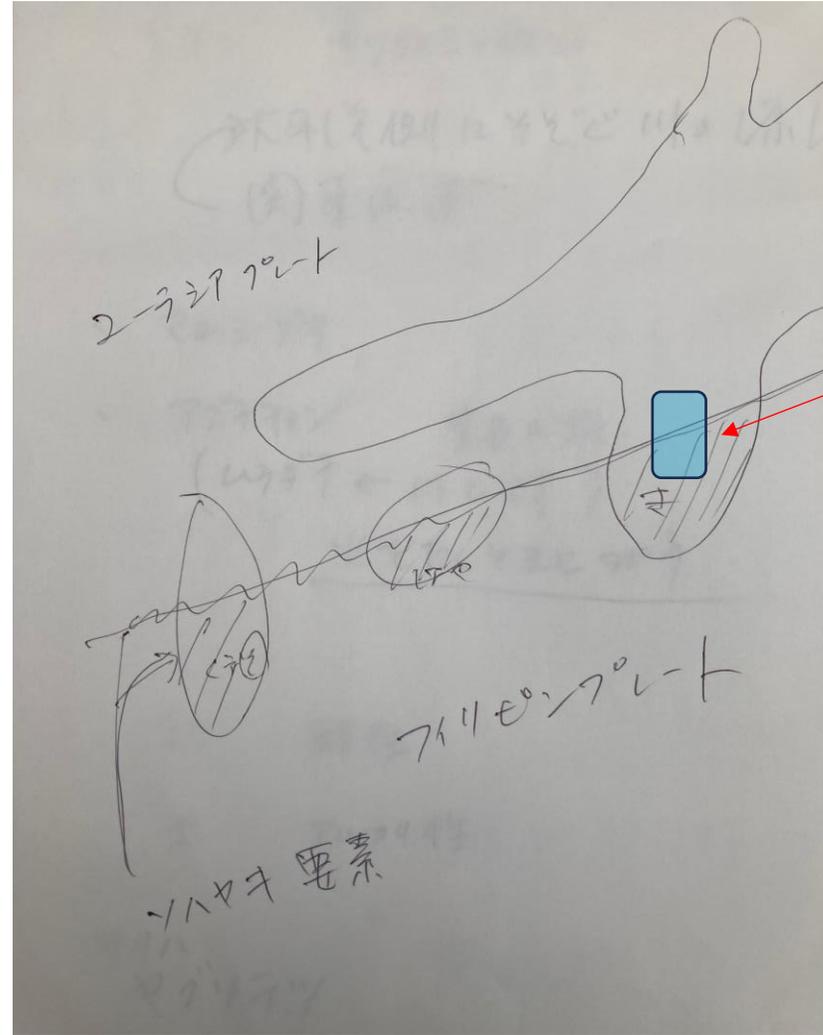


この日はノリウツギ（糊空木）が満開でよく目立ちました（村内の沢沿いに普通）
宇陀紙（吉野町国栖）の「ノリ」に使用
吉野町国栖の周辺にはたくさんのノリウツギがコウゾ、ミツマタと一緒に植えられていたそうです。



ぽつぽつと小湿地があり、オオミズゴケ（酸性を好む）の大きな群落を確認できました。

※オオミズゴケ（環境省RDB準絶滅危惧種・奈良県RDB絶滅危惧種・自然公園法指定植物）



酸性



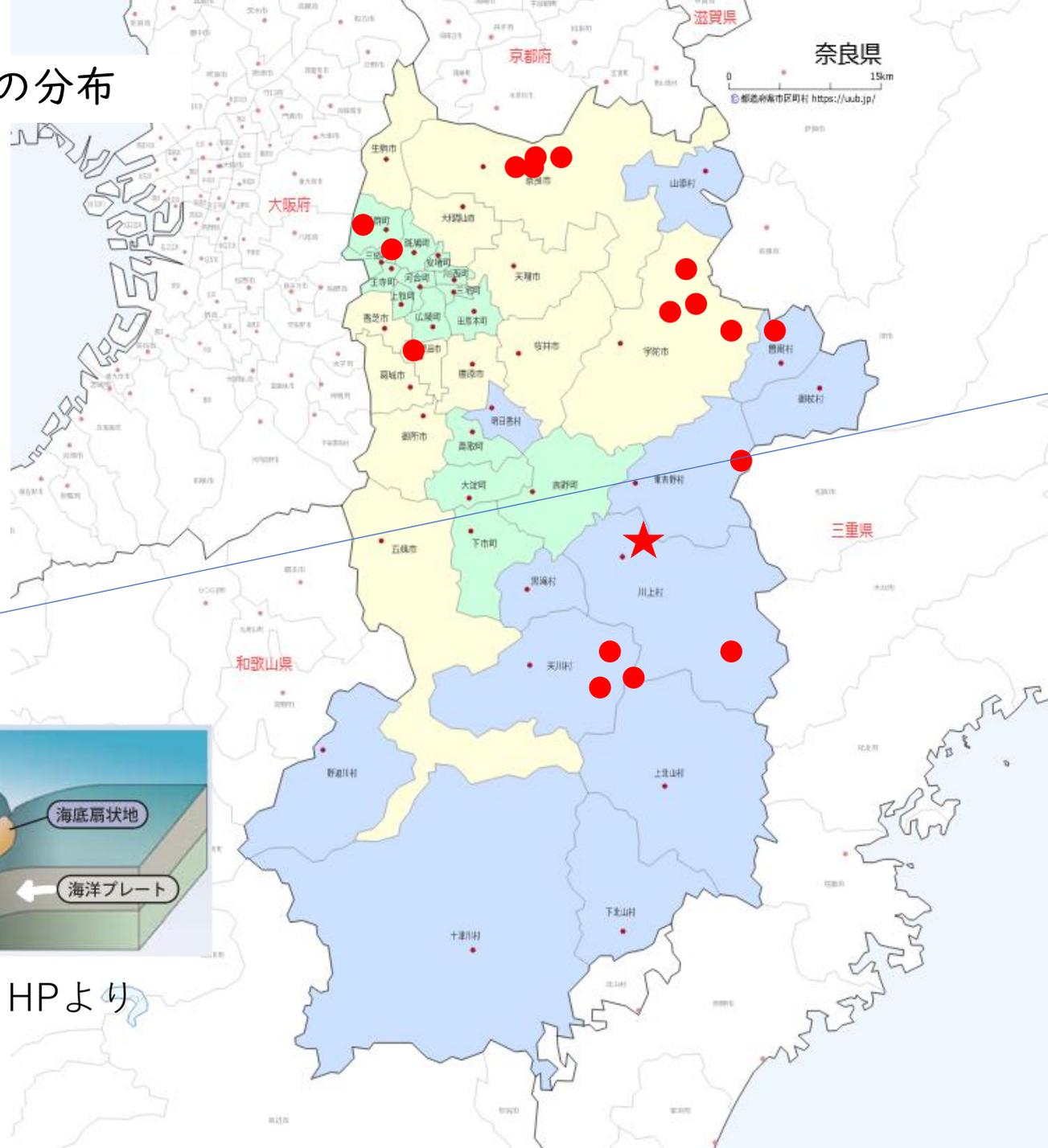
奈良県



アルカリ性

奈良県のオオミズゴケの分布

木村・佐久間
(2008)より作図



酸性

内帯：火成岩主体

中央構造線

外帯（付加帯）：堆積岩主体

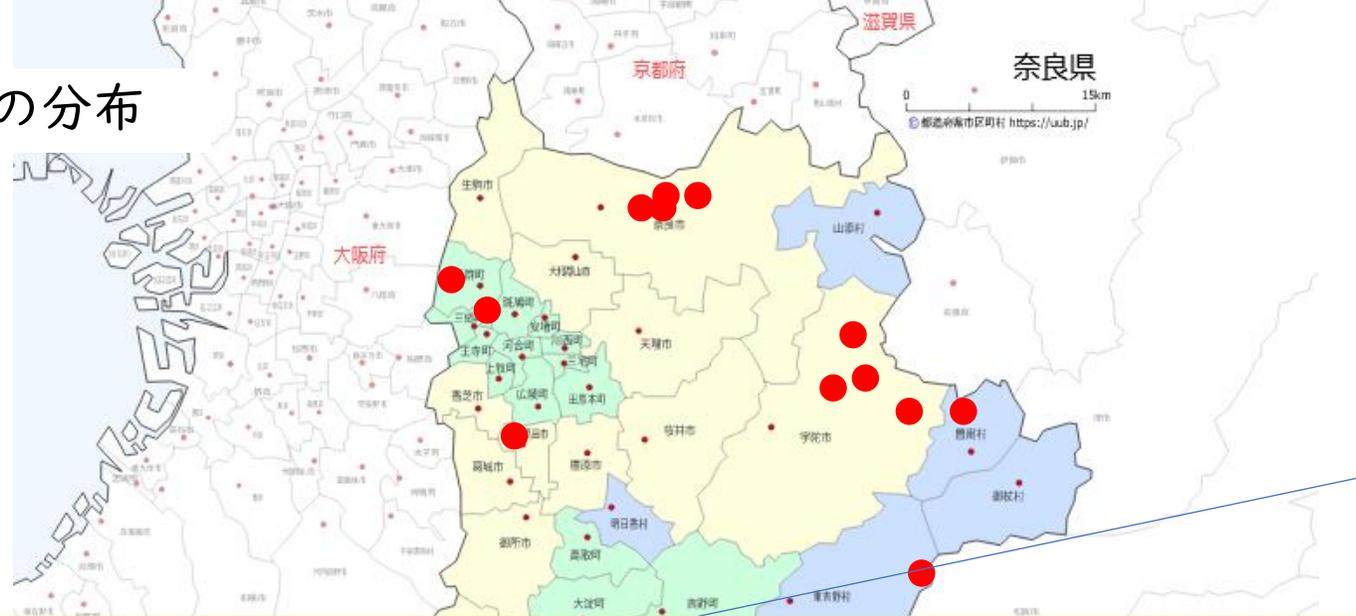
アルカリ性



南紀・熊野ジオパークHPより

奈良県のオオミズゴケの分布

木村・佐久間
(2008)より作図

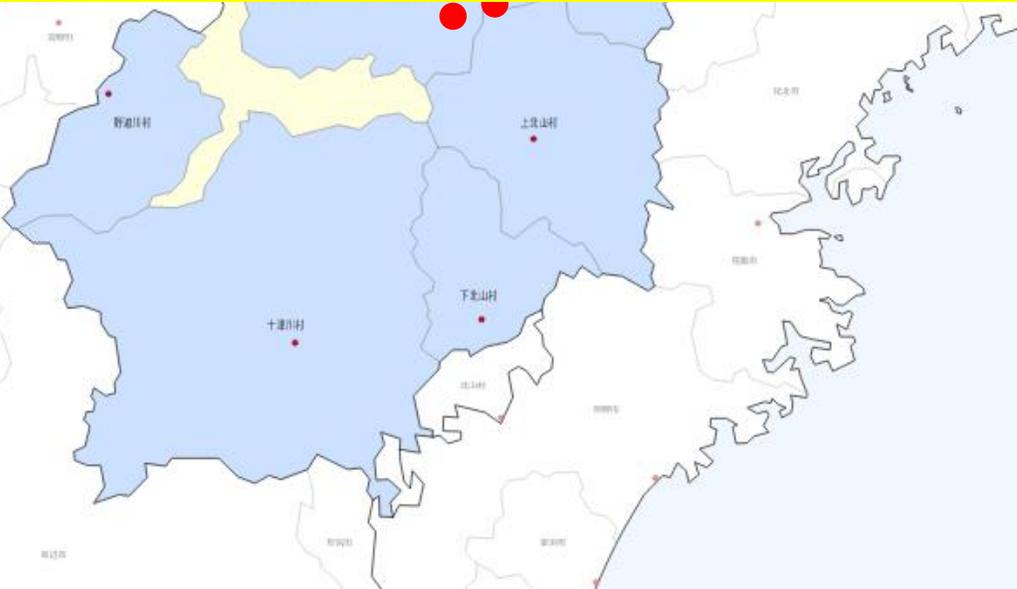


吉野の大地は中央構造線外帯の付加帯
(ならではの自然の面白さがある)

酸性
内帯：火成岩主
↑
中央構造線
↓
外帯（付加帯）：堆積岩
アルカリ性



南紀・熊野ジオパークHPより



たくさん生えていた木の種類



ウリハダカエデ



オオバアサガラ



コアジサイ

前2種は集落周りであまり見かけないですが、シカの不嗜好性植物とされるものが目立ちました。

観察記録

樹木：

タラノキ、ヤマカシユウ、ノリウツギ、オオバアサガラ、ウリハダカエデ、ミズナラ、コアジサイ、クロモジ、コバンノキ、アブラチャン（川上村ではムラダチ）、ミズメ、ソヨゴ

草本：

ミズタバコ、マツカゼソウ、チドメグサの仲間、ヤマトテンナンショウ、フタリシズカ、サワギク

シダ：

ヒカゲノカズラ、マンネンスギ、クラマゴケの仲間、ツヤナシイノデ？、イワヒメワラビ、コバノイシカグマ、トウゲシバ、ゼンマイ

コケ：

ホソバオキナゴケ、ミゾホオズキ、イワダレゴケ、ヒノキゴケ（別名イタチのしっぽ）、オオミスゴケ、コセイタカスギゴケ、ナミガタチョウチンゴケ、コウヤノマンネングサ

動物：

サワガニ（メス）、タゴガエル、コオニヤンマ、、タカハヤ

鉱物：

チャート、石灰岩

8月26日

場所：山葵谷（伯母谷）

参加者：7名

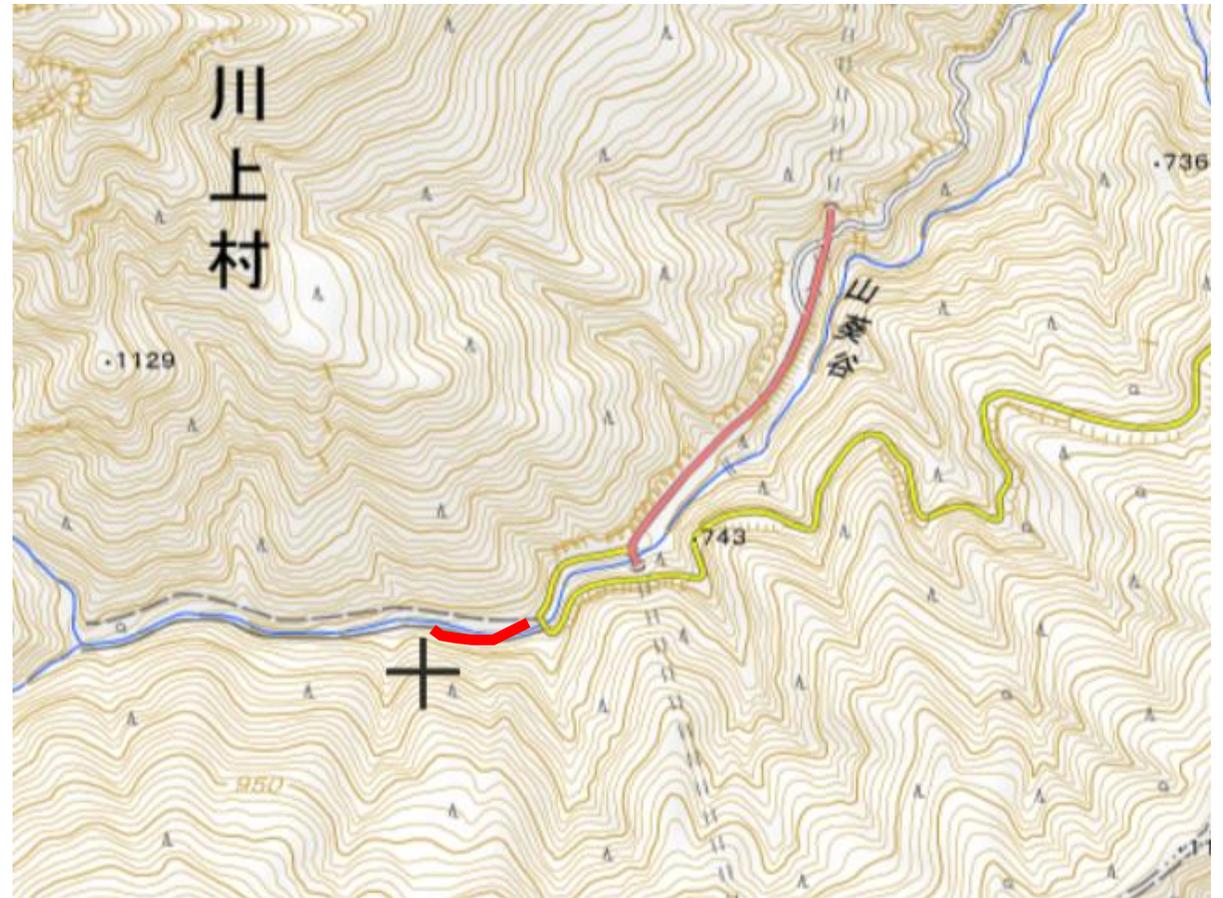


伯母谷川（吉野川支流）源流

石灰岩多い

標高約750m

※右岸通常立ち入り禁止



地理院地図（電子国土Web）

ソハヤキ（襲速紀）要素の植物の観察



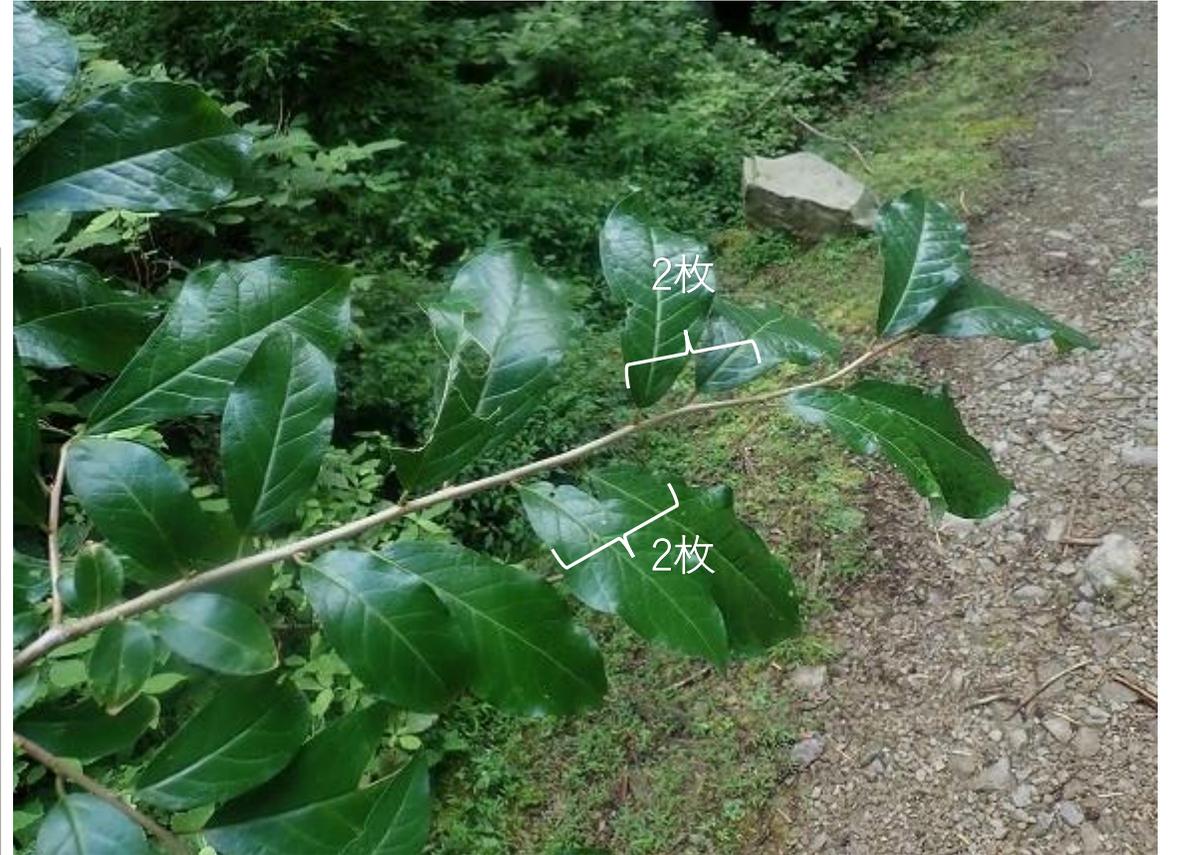
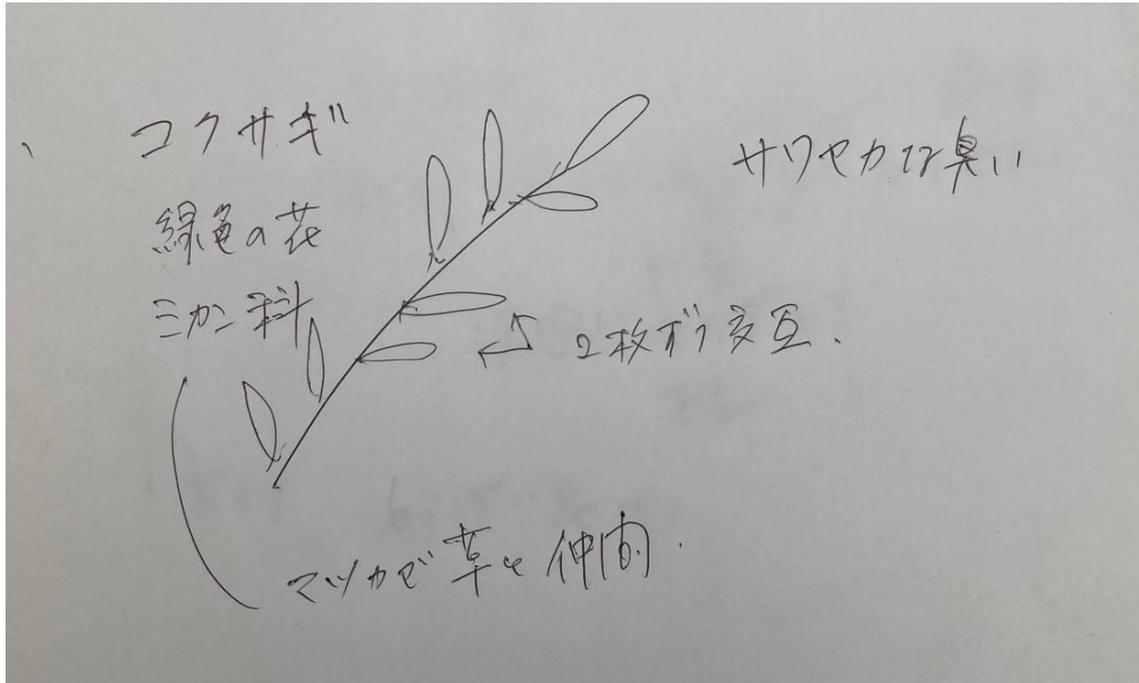
ズイナ



コクサギ（好石灰岩性）：中奥～上多古に多い

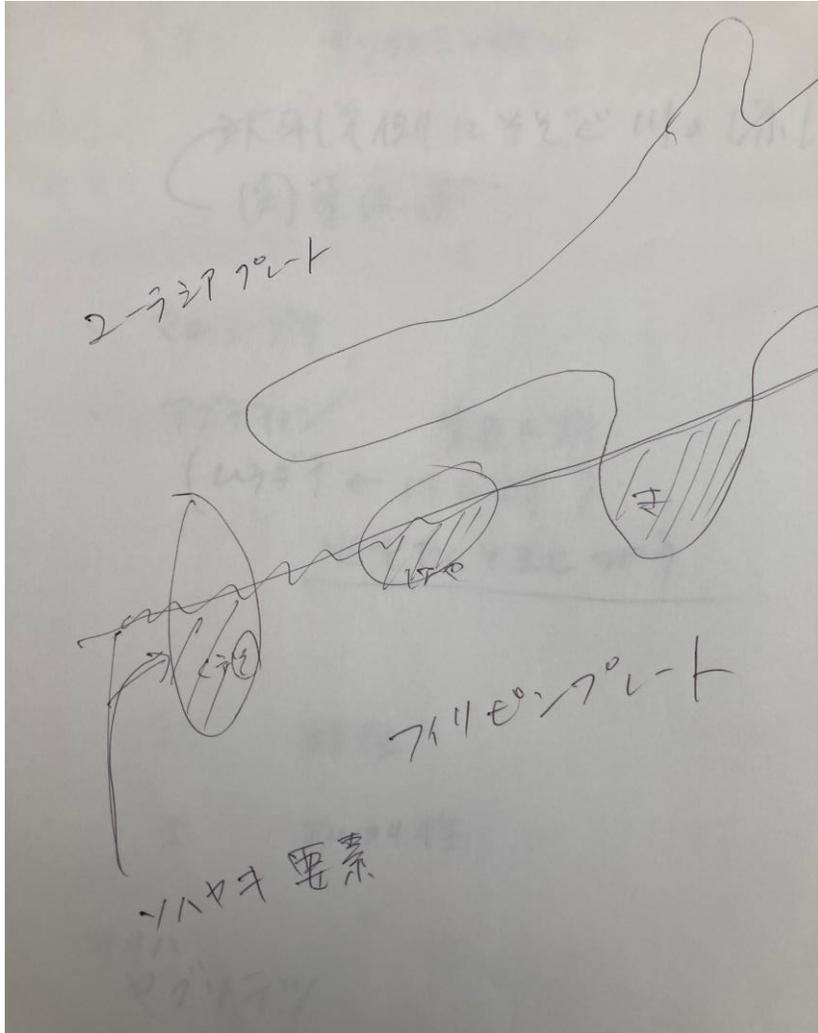
コクサギのおぼえ方

- ・コクサギ型互生 = 2枚ずつ交互に葉っぱが付く
- ・葉っぱの香り



コクサギ

ソハヤキ（襲速紀）要素→川上村に多い



九州中南部、四国南部、紀伊半島の南部、東海地方（中央構造線外帯）に分布の中心がある植物のグループです。約100種。

- ・襲：かつて九州南部の民族である熊襲
- ・速：豊予海峡の古い呼び名である速吸瀬戸
- ・紀：紀伊国

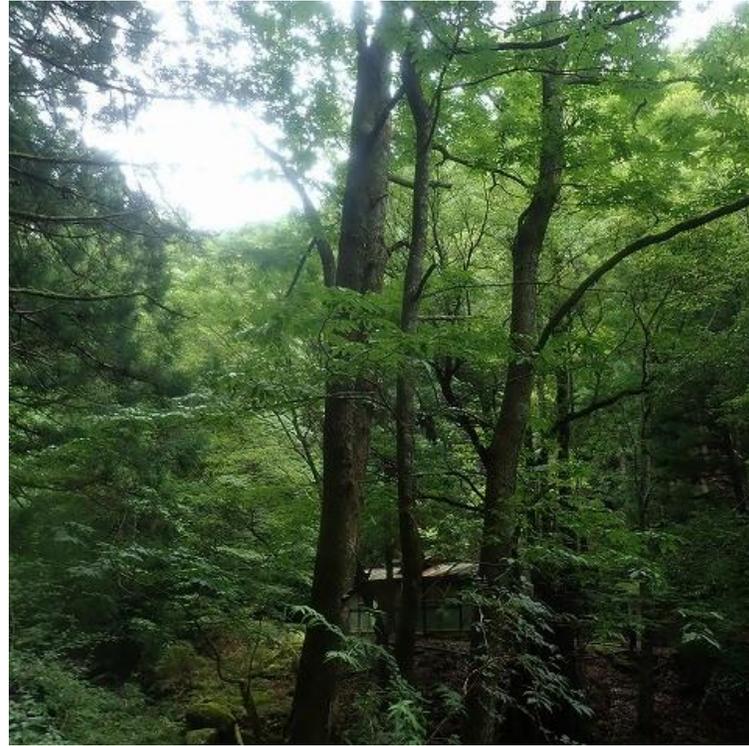
※川上村の主なソハヤキ要素の植物

トガサワラ、コウヤマキ、ウラジロモミ、シロモジ、ヤハズアジサイ、ヒメシャラ、サツキ、モチツツジ、イワザクラ、キレンゲショウマ、ヤマジオウ、ジンジソウなど

川上村源流部の沢沿いで高木になる木(4点セット)を観察



サワグルミ



カツラ



トチノキ

ほかにシオジも観察 (写真無し)

観察記録

樹木：

スギ（針葉混交林）、コアカソ、トチノキ、サワグルミ、シオジ、カツラ、コクサギ、ズイナ、アブラチャン、アサガラ、ケヤマハンノキ、フサザクラ、ミカエリソウ

草本：

アケボノソウ、、マツカゼソウ、ムロウテンナンショウ、ホオズキ、ミゾホオズキ

シダ：

イワヒメワラビ、コバノイシカグマ、オニヒカゲワラビ、テリハヤブソテツ

コケ：

チチブハイゴケ、ホンシノブゴケ

動物：

オオルリ（song）、ニホントカゲ、タゴガエル、ヤマビル

（参考）伯母谷区管理のワサビ田があったが、施設が壊れて、現在は稼働していない。

今年度の観察したことの整理（川上村の自然の特徴）

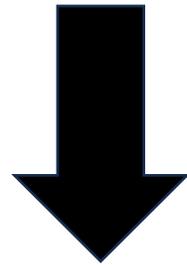
- ・村のシンボル、ヤマブキが川上村にたくさんあることの原因を知る
- ・石灰岩が川上村に多いことに関係した植物が多いことを知る
- ・住んでいる大地の成り立ち、中央構造線の外帯（付加帯）で、アルカリ土壌が多いことを知る
- ・ソハヤキ要素って
- ・源流の高木になる4種類を知る

今年度の観察したことの整理（川上村の自然の特徴）

- ・村のシンボル、ヤマブキが川上村にたくさんあることの原因を知る
- ・石灰岩が川上村に多いことに関係した植物が多いことを知る
- ・住んでいる大地の成り立ち、中央構造線の外帯（付加帯）で、アルカリ土壌が多いことを知る
- ・ソハヤキ要素って
- ・源流の高木になる4種類を知る

メモの積み重ねは地域住民によるインベントリー収集活動へ

川上村の自然の面白さを楽しみませんか？



入会お待ちしております

代表：中川育子さんまで